

彙報

京都哲學會秋期公開講演會

京都哲學會は十一月十日午後一時より文科大學第九教室に於て秋期公開講演會を開き、左の講演あり。藤代學長を初め、諸教官學士、學生、その他の會員及び一般聽講者堂に充てり。

ソフイストとソクラテス

文學博士 波多野精一君

支那思想史より見たる河南省

文學博士 服部宇之吉君

右講演後、午後六時より學生集會所に於て、服部博士親迎の晩餐會を開き、文科大學諸教官、諸學士等廿餘名出席せり。

心理學讀書會

十月廿四日午後三時半より心理學實驗場に於て例會を開き左の講演あり。

Dawson の兩眼視現象に關する三論文

文學士 黒田源次君

内部的知覺に就て

文學士 澁澤理作君

社會學會

十月廿五日午後六時より學生集會所に於て例會を開き、左の講演あり。

文明と衰退の法則に就て

杏澤吉太郎君

新著紹介

哲人ブルノ

故文學士 岡本春彦著

この書は著者が文科大學在學中、受験の爲に、自から題を撰んで物して置いたのを、前號に書いた事情の下に、このたび公刊せられたのである。

ブルノオは、近世哲學の先驅者中、最も偉大なるもの一人である。本書の卷頭に、朝永、西田兩博士が心を籠めた序文を添へて居られるが、その一節に據れば、ブルノオの哲學には大體二つの様相が有つて、その一面によつて、彼れはスピノザの先驅者となり、他の一面によつてライブニッツの先驅を爲してゐる。本書によれば、ブルノオは一五四八年に、以太利の南部、エスピアス火山の西北に當るノラと言ふ、南歐の美に充ち満ちた町に生れた人である。十四五歳の交に達して、ナボリの僧院に身を委ね、こゝで天文、數學、哲學を研究し、又詩や劇を作つたが、廿八歳の時異端の宣告を受けて、ロオマに走つて以來、誠に浮草の如く、以

太利亞の町々を巡れさまよひ、更に北の方アルプスを越えて、里昂へ走り、ゼネヅへも行き、ツウルウズ、巴里などを經て暫く倫敦に滞在し、再び大陸へ渡つて、獨逸の町々を漂泊らへて、フランクフルトにもとまつた。後一人の青年貴族に招かれて、エニス迄歸つたが、遂に、この卑怯なる男に陥れられて、恐ろしき宗教裁判の手に渡り、六年牢獄に過した揚句、破門を受けて、終に一六〇〇年二月十七日に、羅馬のカムボネーイ・フイオオレの廣場に於て、焚殺された。僧侶が手渡さうとする十字架をはねのけて、さげすむ様に目をそむけ、さうして一言の悶へも發せず。

この悲壯なる先哲の性格、思想、生活は、本書の著者の甚深なる同感を喚び覺ました。この書は、ブルノオの倫敦滞在期に於ける思想の代表的の著作なる "Dia Iogui Teila Gausn, Principio et Finis" を、章節を刻んで紹介し、解釋し、批評し、批評しながら、著者自らの世界觀、人世觀を述べるのであるが、著者はその間に於て、甚だ屢々、ブルノオの思想に、論理上、形式上、言葉の上の缺陷、矛盾を指摘し、批難しながらも、又絶えず、夫等の批難せられたる形式、言葉の底に、大いなる深き體驗が有ることを確信し、辯護し嘆美してゐる。『單なる論理では無い。それはもはや天才的直觀の哲理である。眞の神を見出し、神を愛するもののみ歌ひ得る陶醉の讃歌である。その誓はブルノオ死してより三百餘年の今日なほひびいて消えぬ交響樂である。形式上の不備は言はずもがな。論理の誤などとはもはや何であらう。形式上いかに誤つても天才は決して肝腎なことに於ては誤らない。』私たちは死んだブルノオに要はない。……私たちはたゞ永遠に死せざるブルノオ

の聲をきけばよいのである。そしてそのこゑこそは、又、私自身心の奥の微妙な不言の聲なのである。』と言つてゐる。哲學のことは、殆ど言甲斐の無い智識より持たない門外漢の自分には、この書を持つてゐる哲學上の價值、哲學史的意義を評量することは全く出来ないが、その様な自分さへも好く分ることは、『更にこの書を選んだわけは特に私がこの書に多くの共鳴を見出したため、そのある所では、單にブルノオを寫すためでなく、反對にブルノオを鏡として私自身の姿を寫すことに努』めんとした意志が、高度に於て爲遂げられてゐることである。著者をこの著に就かしめたものは、實に、このブルノオの聲として聞かれた、著者が底心の不言の聲である。ブルノオの言葉の底に、行と行との間に滲み現れて、心の底に響き入り込んだものが、彼れのこの一巻の思索を導いたのである。それは誠に、ブルノオに映じた彼れであり、彼として生きたブルノオであらう。この意味に於て、(この意味に於ても) 彼れは、たしかに一つの姿に於ける眞のブルノオの紹介者であると言へるのであらう。然しそれよりも尙確實に見られ得るものは、著者自らの言ふ如く、ブルノオに映ずる彼れ自らである。思想の筋にも、形にも、その氣はひにも、悉く彼れ自らの心の傾きがまざまざと現れて一つの童子高き精神が、確實に、温かに生きて、聲高く物言てゐる。ブルノオの鏡に映る自分自らを、ひと許りに彼れは掴まへて、さうしてそれをきつかりとこの一巻に鏤りばめてゐる。

何事であるにしても、『眞なる彼れを表はし遂げた時彼れは誠に、思想家、藝術家凡て之等の人間の爲さざるべからざる重大な

ることを爲したのである。『哲人プルノー』に讀み入る彼れも又、殆ど確實に、プルノーに生き、この書の著者に生き、さうして彼の底心に生きつゝ、永遠に生き行くものを喚び醒すことであらう。京都丸太町寺町東、弘文堂書房發行。壹圓二十錢(植田壽藏)

寄贈書籍雜誌

文學に現はれたる(平民文學時代の上)津田左右吉氏著 洛陽堂
 我國民思想の研究
 哲學雜誌、思潮、丁西倫理講演集、心理研究、六合雜誌、東洋哲學、無盡燈、東亞之光、六條學報、早稻田文學、學校教育、教育内外教育評論、教育研究、教育界、教育時論、東京教育、静岡縣教育、岐阜縣教育、愛知教育雜誌、長崎縣教育會雜誌、都市教育、信濃教育、佐賀縣教育、藝備教育、宮城教育、愛媛教育、山形縣教育、秋田縣教育雜誌、文化運動、現代教育。

前 號 目 次

| | | |
|-------------------------------|------|-------------|
| 奧義書と起信論…………… | 文學士 | 羽 溪 了 諦 |
| ライブニッツ哲學の意義…………… | 文學博士 | 田 邊 元 |
| デカートの規則論に現はれたる批判論的思想(完結)…………… | 文學博士 | 朝 永 三 十 郎 |
| 心理學と客觀的方法(承前)…………… | 文學士 | 橋 崎 淺 太 郎 |
| 個別的因果律に關して更に田邊博士の教を俟つ…………… | 文學博士 | 左 右 田 喜 一 郎 |
| 彙報——新著紹介…………… | | |